

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和2(2020)年9月1日 火曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



比叡山宗教サミット33周年「世界平和祈りの集い」が8月4日、比叡山延暦寺一隅会館前広場に建つ記念碑前で開催された。森川宏映天台座主猊下が平和祈願文を述べられ、参列者からは恒久平和に願いを込めて祈った。式典の様子は全世界に動画配信され、祈りを共有した。(4・5面に関連記事)

## 比叡山宗教サミット 33周年 「世界平和祈りの集い」開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止から、今年是国内の宗教代表者への案内は見送り、宗機顧問会会長の杉谷義純妙法院門跡門主や宗議会議員と宗務所長ら一部の宗内関係者、天台宗と延暦寺の役員のみでの開催となった。

式典は午後3時15分から杜多道雄宗務総長の挨拶で開式。天台宗と延暦寺内局の出仕で法楽後、大導師を勤められた森川座主猊下が平和祈願文を奉読され「新型コロナウイルスという新たな脅威と対峙しており、世界は空前の危機に瀕している。人びとが不安に苛まれている今こそ、私も宗教者は対話による相互理解を深め、共に祈り、世界平和を希求し続けなくてはなりません」と呼びかけられた。また終戦75年にも触れられ、戦死者を慰霊し、恒久平和の実現を誓われた。

午後3時半には文殊楼にある鐘楼「世界平和の鐘」が打ち鳴らされ、全員で一分間の黙禱を捧げた。

海外からは、ローマ教皇庁諸宗教対話評議会議長のミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット枢機卿から「新型コロナウイルス感染症は、忘れられていた多くの価値観を思い出させてくれた。祈りと希望は全ての宗教に共通し、私たちが有限を超えて物事を見る手助けとなる」とのメッセージが寄せられ、世界仏教徒連盟のパン・ワナメティ会長からも今回の集いへの期待があった。

最後は、水尾寂芳延暦寺執行から比叡山メッセージが朗読され、平和への祈りと行動を続けることを誓い合いながら閉会となった。

### 極微

新型コロナウイルスの感染問題は、短期的な対応では済まない状況がはつきりしてきた。今後、ウイルスに關しいろいろなることが明らかになってくると思われるが、どうやら、感染者が増えて抗体を持った人がある程度の割合にならないと感染の拡大を阻止できないようである。これは、犠牲者が一定数出ることやむを得ないとする考え方もあり、いささかぞっとする見解だ。▼感染後の免疫を持った人の数を増やすことで伝染力を弱め、この疾病の収束を図るという方法を選んだスウェーデンの集団免疫戦略の経過を見ると、7月末の時点で累計の死者数は6千人近くに達し、そのほぼ9割を70歳以上の高齢者が占めた。死亡率は100万人当たり556人と世界最悪レベルとなった。戦略の評価は長期的な検討が必要であり、有効であったかはいまのところわからない。▼コロナ禍は長い戦いになる。いや、戦いというよりも共存というべきだろう。完全なる収束という勝利はどうか望めないのだから。有効なワクチンができるのも、1年かそれ以上の年月がかかるというわくわくしている。まさに長い道を行くようなものなのだ。▼コロナ禍により落ち込んだ経済の復興も図らねばならないが、その施策の妨げになってしまうコロナ対策もとらないわけにはいかない。政府や各自自治体の苦悩は大きい。